

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4372601288
法人名	社会福祉法人 広友会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 きらく
訪問調査日	平成 19年 8月 1日
評価確定日	平成 19年 8月 7日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372601288
法人名	社会福祉法人 広友会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 きらく
所在地	菊池市旭志伊坂446-2 (電話) 0968-37-2511

評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと
所在地	熊本市上通町3-19 長安寺ビル402号
訪問調査日	平成19年8月1日
評価確定日	

## 【情報提供票より】(平成19年7月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 11月 10日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8人
利用定員数計	9人
常勤	6人
非常勤	2人
常勤換算	7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての 1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	9,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	180円	昼食	300円
	夕食	300円	おやつ	-円
	または1日当たり		780円	

### (4) 利用者の概要(7月18日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2		2名	
要介護3	4名	要介護4		2名	
要介護5	1名	要支援2		1名	
年齢	平均 83.5歳	最低	75歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	菊池市医師会立病院、中村歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

リビングやキッチン・居室には入居者が思い思いに過ごしており、ゆったりと和やかな時間が流れているようです。身体的には元気な方が多く、家族の一員としての役割を果たすことができている。楽しみ事や外出の支援なども積極的に支援されており、ホーム全体が活動的でもあります。同一敷地にある法人との連携関係が強く、他事業所のサービス利用をはじめ、菜園や外出時の車両借用などで、ホームの生活が充実しています。今後は地域密着型サービス事業所としての地位の確立や、認知症ケアの理解啓発拠点として地域活動に取り組みられることが期待されます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の見直しを行い、職員の目に触れる場所に掲示することによって常に意識し、その実現に努めるようになってきた。ホーム内での楽しみ事は様々な取り組みをおこなっているが継続性がなく、今後の課題として残っている。また、地域との連携の一環で、認知症研究会を併設施設と共に実施しているが、今後はホーム主体の企画で主催していくことを考えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は管理者と主任を中心に行ったものである。今後はそれぞれの職員が、自ら提供するサービスについての自己評価を行い、ホーム全体の質を高めるための取り組みが期待される。また、個別の目標設定や達成度など自己啓発につながる評価について、法人全体での取り組みを活かしていくことも必要と思われる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議については、開始されてから間がなく、出席者に開催趣旨を理解してもらった程度である。今後は、グループホームの運営や認知症についての理解等を求めながら、地域に密着した施設としての役割を担うことが期待される。そのためにも、会議日程や議事の事前告知などに工夫が望まれる。また、行政との連携も不可欠であるため、その関係確立にも努力が求められる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族には行事等の提案を随時行い、意見の収集に努めている。家族交流会では家族同士で話し合う機会も設定し、家族が抱える不安や悩みに対しても適切な対応が取れるよう配慮している。意見や要望についても、できるだけ反映させるための仕組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣に住宅が少なく、そのためホームに隣接した道路の清掃活動や、散歩コース沿いの町内商店街や理美容室を利用する際には、心がけて関係づくりを行うようにしている。地域との繋がりも、保育園や地域老人会との交流や地区のお祭りに出かけて、地域での暮らしを大切に支援している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症研修に参加した職員の意見を参考にし、管理者・職員間で検討を重ね開設当初の理念の見直しを実施した。その結果、その人らしく生活することを支えるケアを目指したものになっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員の自筆で大きく書かれており理念への自信が窺える。室内の数ヶ所に掲示し、常に意識するよう心掛けている。家族との交流の機会を通して、家族へも理念の説明をしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の民家は少ないものの、ホームの周りの道路の清掃や保育園・地域老人会との交流、地区のお祭りなどへ出かけている。大通りにあるガソリンスタンド等の店舗とも、付き合いが出来るようになってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果をもとに理念の改訂をふくめ、サービスの質の向上のためにホーム全体で取り組みや改善を図っている。		個々の職員の目標やその達成をふくめ、ケアサービスについての自己評価も実施されることが望まれます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は始まったばかりであり、出席者には開催の意義・役割等への理解が不十分のようである。		認知症やグループホームに対する理解や協力を得られるよう、具体的なホームへの企画段階からの参画要請が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併が行われたため、市の担当者とのホーム独自の関係再構築に努めている。		地域密着型サービス事業所として、行政との連携体制が望まれます。そのためにもホームに来所してもらえる機会を多く持つことが望まれます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	”きらく一期一会”通信は定期的に発行し、入居者担当からのお便り欄も活用し、家族への細やかな報告をおこなっている。編集にも工夫がみられ、家族にも親しめる通信となっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等については随時提案して家族に尋ねるようにしている。年2回の家族交流会では、家族同士で話し合う機会を設け意見収集に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から法人内施設の交流が行われており、職員の異動が混乱を引き起こすことは少ない。異動や採用にあたっては、適正を考慮して行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修や、委員会企画の様々なテーマごとの研修が隔月あり各自参加、また外部実践研修にも交替で参加し研修報告をしながら共有するようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地区の同業者との交流を図り情報交換を行っている。また、法人全体でも介護情報の交換等を通じたサービスの向上に努めてもいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居される前には必ず本人に入居体験してもらってから決めてもらっている。またホームの特徴なども説明し、他のサービスも合わせて紹介し納得してもらっている。常に本人の気持ちを配慮するようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>暮らしを共にする仲間であり先輩であることを念頭に、場面ごとに学んだり相談したり家事等を支援しながら一緒に行う関係づくりが出来ている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人・家族から十分話を聞くようにしている。また、担当の介護支援専門員・医療相談員からの情報収集をもとに、職員全員が一人ひとりの想いや要望を把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成に当たっては、思いや意向の把握・家族の希望も踏まえて作成担当者が作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当者は、サービスの評価を毎月行い定期的なモニタリングを経たのち全職員のカンファレンスで検討している。細やかな対応の姿勢が窺える。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の別事業所であるデイサービスや車両の借用など、事業所間の相互協力体制が整っている。		今後は地域の認知症高齢者やその家族への支援について、ケアサービスの提供について具体的な検討が期待されます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は以前からの関係を継続している。通院も本人と家族との関係を保つための機会と捉え同行してもらっている。介護タクシーを利用するなど、それぞれに応じた支援にも心がけている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方針については、入居時に本人・家族との話し合いの中で合意している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人全体の研修でプライバシーの確保の徹底を学び、日々配慮している。		各種マニュアルの設置やグループホーム独自の研修や外部研修への参加の機会を増やす事が望まれます。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いに柔軟に対応するように努めている。外出については、法人内の車を使用して買物やドライブなどが対応しやすい環境にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビや雑誌などから、献立や好みについて入居者の声に耳を傾け、栄養のバランスも考えながら献立を決めるようにしている。メニューが決ると買い物と一緒に行き、準備・配膳・片付けを職員とともに行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌う入居者には家族から声掛けをお願いしてみたり、温泉に行く等して清潔保持支援に取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下拵え・家庭菜園の収穫・掃除・洗濯物たたみなどの役割や、カラオケ・散歩・少人数での談笑などの楽しみ事などの中で、能力に応じた力を発揮できるような支援に心がけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物や温泉・理美容院への外出など、屋外での生活を楽しむ機会も多くもうけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や庭へはいつでも出入りできるようにしてある。また帰宅願望がある方に対しても、見守りする事を心がけ、法人職員や近隣の協力も得られるよう理解と体制づくりを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練は、夜間を想定して行っている。法人の協力体制の他、次回からは運営会議のメンバーにも参加してもらおう事を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と10時・3時のおやつで水分確保できるように配慮し、様子を見ながら随時水分補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は高い天井で広々しており、テラスや芝生の庭も手入れされていて開放感がかかる。空調も快適に管理され、リビングから全体が見通せる建物の造りも見守りをするのに適している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋間と和室があり、それぞれすっきりと整頓されている。窓辺には植物・棚には写真が飾られたりしている。		すっきりして気持ちのいい部屋ですが、その人らしい生活感溢れる居室とは言い難い。その人らしい居室環境について検討が望まれます。



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症共同生活介護事業所 きらく
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県 菊池市 旭志伊坂 446-2
記入者名 (管理者)	齊藤 江美
記入日	平成 19年 7月 18日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>職員が地域の中でその人らしく暮らし続けていく為に、事業所として、また、職員として何をすべきかをそれぞれ考え、BS法で意見を出し合ってその意見を総合的にまとめ、作り上げている。それをご家族の方にも通信でお知らせしたりし、皆で共有していけるようにしている。</p>	<p>その理念を活かし、さらに地域の中でその人らしく暮らし続けていくことが出来るように、御家族や地域の皆さんの理解・協力を得ながら支援していき、また、向上し、地域に中になくってはならない場所となるよう、より一層の努力をしていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は管理者が一人で決めたものではなく、職員全員で考えたものである。その実践に向けて管理者・職員が一体となって取り組んでいるところである。きらくの勉強会などでも再度職員間で共有し、日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者・職員、その他訪問された方がいつも見ることが出来る、管理者・職員がいつも心に留めておく事が出来るようグループホーム内に掲示し、職員全員の思いを忘れることなく実践するように心がけている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の皆さんには様々な場面で協力いただき、また、理解していただく事が出来るようにお話をしたり、地域の中に出掛けて行ったり、そのことを面会時や通信等で知っていただき、理解していただけていると感じている。地域の人々からの理解は、運営推進会議等で少しずつではあるも、理解していただけるようにはなってきたと思う。</p>	<p>地域の皆様に認知症やきらくの理解をしていただく事が出来るようになるように、また、地域に無くてはならない存在になる事が出来るように、認知症の理解を深めていただけるような研修会を実施したり(あさひが丘荘と合同で3月に実施)、地域の方が気軽に気楽に相談や訪問が出来る場所になるようにアピールしていきたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所は少ないものの、職員と一緒に施設前や周辺の掃除やごみ拾いをしたり、地域の駅伝大会の応援に出かけるなど、日常的な付き合いが出来るように努めている。</p>	<p>隣近所は少ないが、地域の保育園・小学生・中学生等の訪問を受け入れたりしている。また、施設を出ると帰り道が判らなくなる利用者もいらっしゃる為、近隣のガソリンスタンド等に利用者がいらっしゃったら声を掛けてもらえるようお願いをしている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域老人と保育園児の交流会に出掛けたり、地域の祭りや運動会等にでかけたり、地域の駅伝大会の応援や、青年団の協力による餅つき(あさひが丘荘と合同)を行ったり、また、前記の通り、地域の子供達の訪問の受け入れなど地元の人々と交流する機会を持つことが出来るようにしている。</p>	<p>地元の民生委員の方等に、地域での行事がある時など事前に教えていただけるようお願いしている。また、民生委員の方に郷土度料理を作りに来ていただけないか等の依頼もしており、より地域の人々と交流が深まるよう努力していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	前記のように、東京より講師をお招きし機器を使用して「認知症対体験」が出来、認知症についてのお話をうかがうことの出来るという研修を職員・利用者家族・地域に向けて行った。		平成19年度は菊池地域においても「認知症を知るキャンペーン」に力を入れている。認知症の方の援助をさせていただいている事業所や職員であるからこそ協力できる事があると思うので出来ることは協力し、様々な事に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の向上を図り、透明な運営の確保をおこなうために行うものと理解している。自己評価で自己を振り返り、外部評価で外部の方の専門的な意見を伺うことで、より一層のサービスの質の向上にむけて、利用者や御家族、ひいては地域の方に満足していただけるサービスの提供ができるように努めている。		買い物時の金銭の支払いや、趣味の活性化(カラオケボックスに出かけたり等)、新しい趣味の発掘(書道の得意な職員と一緒に字を書いたり)、食事の準備・片づけをお手伝いしていただく等取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を行っている。地域の民生委員様、区長様、消防団長、商店、市役所の旭志支所の担当の方、利用者の家族の代表の方に参加の依頼をしている。参加人数はまだ少数ではあるも、実施することで事業所からの報告や国の現状、地域の現状がお互いに理解できるようになってきている。財務の報告もおこなっている。		地域で民生委員様や、区長様などが頑張っていて、地域の認知症高齢者に関わっておられることがよくわかる。自事業所で協力できる事はいつでも言って欲しいとお願いしている。希望に応じてサービスの提供や、協力ができるようにしていきたい。また、今後は、運営推進会議での避難訓練なども実施していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	まだ行き来する機会は少ないので今後増やしていき、地域に即したサービスの質の向上が出来るようにしたい。		地域が合併して旭志村から菊池市となり、市がどのように考えておられるのかがわかりにくくなった。支所に尋ねても判らないということがほとんどであるため、出来るだけ市と共にサービスの向上ができるように働きかけていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用されている利用者が1名入居されている。その中で学んでいる所である。		地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度をもっと深く理解する事ができるよう、また、それらを活用する事で入居者の生活支援の幅が広がるよう、知識を全職員で学ぶ機会をつくるようにしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あさひが丘荘と合同で行う会議の中で高齢者虐待防止関連法について学んだり、他事業所の事例から学んでいる。利用者の自宅や事業所内での虐待が行われる事が無いように注意を払っている。きらく内での虐待の事例は無い。		今後も、今まで同様虐待の無いよう注意を払い、防止に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は必ず、管理者・計画作成担当者が行うようにしており、不安や疑問を持たれたままで入・退所されることが無いようにお尋ねし、十分な説明を行い、理解・納得を計る事が出来るようにしている。</p>	<p>今後も、今まで同様不安や疑問が残らないように十分にお尋ねし、十分な説明で理解・納得をいただけるように努めていく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者との日頃の関わりの中で思いを引き出したり、御家族の面会の際に意見を申し出てもらうなどし、その思いを日頃の暮らしや運営に反映させている。行事を行う場合に、ご家族に事前に実施したい内容や日程等御相談したり、財務の内容も閲覧できるようにしている。</p>	<p>苦情を言いやすい雰囲気作りに努めている。苦情も改善・向上の為の良いチャンスであると捉え、個々の職員・事業所全体のサービス向上に努めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>法人全体の広報誌を3ヶ月に一回、事業所からの通信を2ヶ月に一回程度行っている。また、細かい変化等であってもために電話や、面会時の報告で御家族にお知らせするようにしている。</p>	<p>病院への受診も御家族に協力していただき、利用者の受診に連れて行っていただくようにしており、御家族も入居者のことをよく理解されている。今後もこの取り組みを続けていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に、苦情を申し立てすることのできる機関の説明や、何でも気付いたことは申し出ていただくようお願いをしている。また、苦情受付箱を設置している。年2回は家族の方との食事会も実施し、御家族同士でもお話できる機会を設けている。過去に職員の利用者への対応についての苦情を頂き、改善・運営に反映させている。</p>	<p>苦情を言いやすい雰囲気作りに努めている。苦情も改善・向上の為の良いチャンスであると捉え、個々の職員・事業所全体のサービス向上に努めている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1ヶ月に1度の全体会議や2ヶ月に1回程度の勉強会、カンファレンス時などに意見交換を行ったり、日々の業務時に意見等聞くようにしている。意見や提案は運営に反映できるように努めている。</p>	<p>より職員からの意見や提案をくみとり、反映させ、サービスの向上・職員が働きやすい環境作りにつないでせいでいきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じて勤務の調整を行っている。</p>	<p>今後も御本人や御家族からの要望・状況に即した対応が出来るように話し合いや勤務調整を必要に応じておこなう。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小限にとどめるようにしている。職員が代わる場合は、グループホームに適した職員の配置をするようにし、利用者の環境を出来るだけ変えることなく、ダメージも少なくなるように努めている。また、普段から、同一法人内の行事等にも参加するなど法人内の職員とも顔見知りになり出来るようにしている。</p>	<p>今後も、今まで同様の対応をしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での様々な研修を実施、参加して職員の育成をしていくのはもちろんのこと、外部での研修にも参加し、知識の習得をしたり、業務を行いながらの助言やトレーニング、初任者には認知症の基礎から学ぶ事が出来るように本や資料を使っての研修など行うようにしている。	今後も職員の育成が出来るよう努力していく。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が熊本県介護支援専門員の菊池支部の役員をしており、その中で地域の同業者の方との交流をおこなったり、熊本県の認知症研修に参加した職員と一緒に研修した職員との交流をおこなったり、近隣のグループホームに利用者と一緒に訪問したりし交流・情報交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。また、疑問点なども近隣のグループホームに電話でお尋ねしたりなどもしている。	今後も同業者との交流を行い、より良いサービスの提供・向上ができるようにしていく。
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	外部の研修等に参加することで気分をリフレッシュすることができるようにしたり、日頃から出来るだけ話をするようにしている。悩み等、一人で抱え込まないように働きかけている。有給休暇も出来るだけ取得できるようにしている。	法人内で職員旅行を計画中。
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	利用者の御家族にアンケート(顧客満足度調査)を実施し、ほめられたことや御指摘があったことなどを職員にフィードバックし、各自が向上心を持って働けるように努めている。勤務状況も確認するようにし、本人の実績に応じた給与の支給もしている。また、地域の風習、季節に応じた取り組みのアドバイス等をしている。	今後も引き続き実施していく。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずは御家族や担当介護支援専門員、医療相談員等からの相談を受ける事が多いため、その方からの御本人の状況をお伺いしたうえで、御本人より、困っている事や必要とされている事、求めている事などをよく聴く時間を設けたり、その思いに少しでも近づく事が出来るように努力している。	入居前に必ず本人にきらくへ来ていただくようにし、居室も見えていただき、他の利用者も紹介し、本人・家族・現在入居中の利用者の不安の軽減を図るようになっている。また、そのときに本人の願いや希望、困っている事、不安な事、尋ねたい事等ゆっくりとお話を聴くようになっている。
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずは御家族や担当介護支援専門員、医療相談員等からの相談を受ける事が多いため、その方からの御本人の状況をお伺いしている。そして、ご家族の方より、困っている事や必要とされている事、求めている事などをよく聴く時間を設け、しっかりと受け止めるようにし、その思いに少しでも近づく事が出来るように努力している。	入居前に必ずきらくへ来ていただくようにし、居室も見えていただき、他の利用者も紹介し、不安の軽減を図るようになっている。御本人や入居者のきらくでの反応も見せていただいている。また、そのときに本人の願いや希望、困っている事、不安な事、尋ねたい事等ゆっくりとお話を聴くようになっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が望ましいと判断した場合は申込を受け付けているが、もっとふさわしい場所がある・サービスがあると判断した場合は、他の事業所や病院、介護支援専門員等につなぐようにしている。		入居の緊急度が高いものの空室がない場合には、他の近隣のグループホームに空室の状況をお尋ねする事もある。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	前記のように、必ず御本人にきらくへ来ていただき、居室を見ていただいたり、他の入居者に御紹介し、御本人が安心して入居できるように、又、本人が納得や理解のうえで利用していただけるようにしている。既に入居されている方にも不安の無いように配慮し、職員の顔も見ていただき、また、事前に職員がその方を知る事ができるように(来所時や事前の資料等で)家族の方の協力を得ながら行っている。		今後も同様に実施していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する人・介護される人という関係ではなく、ともにきらくで過ごす仲間であったり等、互いに学んだり、支えあう関係を築くようにしている。		お互いに頼りにしあったり、一緒に掃除や洗濯等したり、悩みを話し合ったりなどできていると感じる。入居者から教わることも多い。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と同じ目の高さで話せるような関係作りをしている。相談事や悩みを伺ったり、状態の変化をこまめに報告し、一緒にご本人にとって何が一番望ましいのかを考えていくようにしている。		職員・ご家族がお互い分かり合え、一緒に協力し合っご本人の生活を考えることができるように努めていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	事前にお話を伺ったり、御家族と関係が確立されてきて初めて得る情報もある。それを職員が共有し、御家族とのよりよい関係の継続が出来るようにしている。また、病院の定期受診には御家族の方に連れて行っていただくようにし、そのことで御本人を理解していただいたり、より良い関係を築く事が出来るように努めている。		今後もこれまで同様、御本人と御家族の関係の理解とよりよい関係を気付く事が出来るように支援していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の方に面会に来ていただけるよう状況報告を行ったり、御家族への本人からの電話やはがきによる連絡を支援したり、御本人の自宅に他の入居者も一緒に訪問してゆっくりとした時間を過ごしてきたり等、これまでの大切なものとの関係が途切れないように支援している。		今後もこれまで同様、大切な人・場所等を、職員と一緒に大切であると感じながら支援して生きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の個性を理解し、入居者同士の関係の把握ができていと思う。個人のペースを尊重しながら、うまく入居者同士の関係を保ち、孤立することなく必要に応じて関わり合い、支えあうことができるように支援している。		入居者同士のその時々々の関係や状況に応じて、様々な場面で関わり合い、支えあうことができるよう、引き続き支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居され、母体の特別養護老人ホームに入居された方もいらっしゃるので、御本人のお見舞いに職員と利用者として出かけたり、御家族の面会時にグループホームの職員が挨拶に行ったりしている。退居後に入院中の病院にお見舞いに行ったり、亡くなられた場合の弔問に訪問したりしている。		今後も関係を断ち切らない関わりを大切にしていきたい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前・入居時・生活中とその時々々の想いをうかがうようにしている。困難な場合は御家族に以前どうだったか等お尋ねしたり、普段の生活の姿から御本人の立場に立って御本人本位の生活が出来るように検討している。夜寝る前のゆっくりとした時間にお伺いする事もある。		その内容をケアプランに活かしたり、御家族に職員側から依頼やお願いをしたりなど、ご本人の希望や意向に近づく事が出来るようにしている。今後も同様にすすめていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に必ず御家族や居宅の担当介護支援専門員、医療相談員等にお尋ねし、把握するようにしている。		一人ひとりが同じではなく、個々を大切にしていきたいと考える。また、今までの生活・暮らし方・環境等で、対応の方法や必要としている事・物等が異なるので必ず把握したいと考える。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	連絡ノート・ケース記録に記録し、個々の状態を職員全員が把握するように努めている。その現状を総合的に把握して介護計画にも生かすようにしている。		今後もより一層一人ひとりのことを多面的に・総合的に細かいことも把握することができるよう努めていく。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の生活に対するニーズを反映できるような取り組みや本人の生活機能を発揮できるような計画を作成している。		職員だけでなく、家族や地域を含めたより良いサービス提供につなげていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しをするとともに、本人に変化があったときは、職員間で話し合い、家族にも報告し、計画を作成している。		現状に即した新たな計画作成に関してのカンファレンス等、さらに充実させていく必要がある。見直しの期間も現在の6ヶ月から3ヶ月程度で行うことができるように更なる努力をしていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を毎日行い、情報の共有や状態の把握、介護の実践、計画の見直しに活かすようにしている。日常的に気付いた事は、連絡ノートで職員に意見や状況把握を求め、見直しに活かしている。		モニタリングを強化していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望・状況に応じて温泉や、カラオケに行ったり、買い物に出かけたり等している。また、季節に応じてバーベキュー、花火、花見、外食その他行っている。また、利用者の病院受診はご家族にお願いしているが、状況の変化等、事業所から伝えの方がよいと思われる場合はご家族に同伴したり、併設のデイに遊びに行ったりする。		グループホームだからこそできるということを実践していきたいと考える。多機能性を生かした取り組みを積極的に今後行っていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園・小学校・中学校・高校・大学・専門学校等からの訪問や実習を受け入れたりすることはあるも、それ以上の地域資源との協働は法人の夏祭りの際にボランティアをお願いする程度である。		運営推進会議等を活用し、地域資源との協働による支援につとめていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の居宅介護支援事業所のケアマネジャーや、入居前の担当ケアマネジャーや介護用品を取り扱っている事業所などに相談し、本人・家族の意向や必要に応じたサービスの利用ができるようにしている。		ご本人の意向や本当に必要なものを見極め、ご本人がその人らしく暮らすための支援を継続していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	一度見学に来られた事はあるが、今のところ、特に必要性のある方はいなかったため、地域包括支援センターとの協働は特に行っていない。		今後本人の意向や必要性に応じて地域包括支援センターとの協働も行っていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所側で病院を指定するのではなく、入居以前からのかかりつけの病院に受診していただくようにしており、在宅生活中から現在の状況まで把握・理解していただくようにし、定期的な面会、日頃の状態を知って頂く意味も込めて家族の協力にて受診している。		かかりつけ医での対応が困難な場合や、緊急性があるもの等については、協力医療機関などの協力を得、適切な医療を受けられるようにしている。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医に受診している入居者が数名いらっしゃるの、利用者の担当の医師に相談したりしながら、入居者が認知症の診断や治療を受けられるように支援している。		ご家族も含めて医師や医療相談員の方との連携がとれやすい関係ができています。今後もより一層の連携がとれ、入居者のための支援がしやすいように努めていく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の母体施設の看護職員、きらくの介護職員(パート・准看護師・介護福祉士で、現在看護学校にて勉強しながら勤務している)や、かかりつけ医の看護師と相談・協力を得ながら支援している。		変化があれば気軽に相談したり、助言を受けたり協力をいただきながら今後も円滑・適切な健康管理や医療の支援の実施を行う。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院に面会に行き、その際に様子伺いをしたり、医師や看護職員、家族と相談をしたりしながら、できるだけ早期に退院ができ、かつ、安心して過ごせるようにご家族との協力も行いながら連携している。		今後も早期退院ができるように、また、本人にとって望ましい暮らしができるように医療機関と調整・連携していく。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については地域の現状として困難な状態である。重度化した場合についても母体の特養の小型版では本当の意味でのグループホームではないと考えるため、入居時にご家族とお話するようにしている。職員間でも方針は共有しており、入居者のなかには、母体施設の特養の申し込みをされている方もおられる。		入居時にご本人やご家族の意向、きらくとしての考え方、また、本人の状況の変化に応じて、繰り返し今後について話し合いをしていく。そしてその内容については、全員で方針を共有するものとする。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できること・できないことについては利用者の状況の変化等が発生したときに協議している。かかりつけ医とも協議していくようにし、よりよい支援をしていく。		今後は状況に応じて(地域性もあり、難しい面もあるが)、訪問看護なども考えていく必要性もあるのではないかと考えている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人のそれまでの生活状況や環境、本人の好むこと・もの、その他、きちんと理解でき、住み替えのダメージが極力少なくなるよう、十分な話し合い・情報交換を行っている。		今後も、その方がその方らしい暮らしやその方自身が理解でき、1日も早くその方らしい生活を送ることができるように支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応は、個々を尊重し、自尊心やプライバシーに十分配慮しながら行えている。記録も同様。	今後も十分な配慮をしていく。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の状態を把握しながら、日々の生活の中で本人の思いが実現できるような対応ができています。又、本人の状態に合わせた対応や説明をおこない、個々が理解できるように、自己決定や納得して暮らしていく事が出来るように支援している。	個々の心身状況や性格等に合わせた支援を継続していく。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に生活を送っていただくことができるように努めている。人数等の都合でどうすることもできない場合もあるが、できるだけその時々思い・希望に沿って支援している。	職員側の決まりや都合を優先したり、それにとらわれたばかりにならないように努めている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は家族の方が持参されたり、御本人と一緒に買い物に出かけたり、母体施設に衣類販売に来られたときにも見に行ったり、御本人が気に入った物を購入するようにしている。理・美容は、本人の好む店に行ったり、グループホームに業者の方に来てもらい、本人の望むヘアスタイルを重視できるよう努めている。	今後も続けていく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれができることを画一的ではなく、個々のそのときの状況等に合わせ野菜の皮むきや、茶碗洗いなど、職員と共に行っている。	本人が負担を感じず、「役に立ってよかった(御本人のやりがいや生活意欲・役割意識など)」と提供いただけるような声かけや支援を続けていく。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒(焼酎など)は、好まれる方が飲みたいときに適度に提供している。一緒に買い物に出かけておやつ等を購入し、個々の状況に応じて楽しんでいただけるようにしている。	特に制限はせず、楽しく暮らしていけるように支援していく。その旨、御家族からの了解も得ている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用したり、本人の排尿間隔を把握することで、オムツ(パット)の使用をなるべく減らしたり、粗相ができないように心がけている。		本人が粗相等をすることにより、自信を無くしたり、気を落としたりされないように、また、他者にできるだけわからないように配慮して支援している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴をあまり好まない方もいらっしゃるので、前回の入浴日からの日数を見て声をかけたりもするが、入浴は、無理強いせず、本人が入りたい時に提供できている。入浴は毎日入る事も出来る。また、外に出かけ、温泉など気分を変えての入浴も行っている。		夜間に入浴されたり、ゆっくりと1時間くらい入浴される方もおられる等、本人のペースに合わせた援助ができている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日その日の状態を把握しながら、自室で過ごしたり、休息できている。		個々の生活習慣、そのときの状況に応じて、個々に合わせて対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前農業や家庭菜園を楽しんでいた方と野菜を作ったり、趣味のカラオケや、家族との電話、自宅訪問、掃除を一緒に行う、料理を一緒に行う等、楽しみや役割作り、張り合いの持てる生活の支援に努めている。		日々の生活の中で、もう少し毎日を楽しめるような行事や、支援をしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は管理しているが、買い物に行った際は本人が会計できるようにしたり、お金が手元ないと不安な入居者に対しては、家族の了承のもと、本人が所持したりしている。		ご本人が直しこみ、お金がどこにあるかが分からないときもある(後で出てくるが)ため、ご家族の方にはそのことについての理解をしていただくようにしている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に行ったり、買物に出たり、庭掃除をしたりしている。自宅にお連れする事もある。		一人ひとりのその日の希望にできるだけ沿うことができるよう努めている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉やコンサートなどに出かけたり、お芝居を見に行っている。		家族の協力を得ながらの、外出支援や行事の開催も取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたいと言われる時には、電話して会話してもらっている。年賀状などできるだけご自分で書いてもらったりもしており、ご家族や大切な人との関係を継続していけるように支援している。		1日に何度も言うような電話の希望が多い方は、ご家族に電話をすることについての許可ももらっており、円滑な関係の継続ができるようにしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族はもとより、知人や友人が気軽に訪問できるような雰囲気づくりには気をつけている。皆さんと一緒にお茶を飲みながら話したり、世間話をしたり、楽しく、居心地良く過ごす事ができるようにしている。また、自室にお通して、ゆっくりお過ごしいただくことができるようにしている。		入居者の友人や家族に電話をして楽しい時間を過ごしていただけるようにもしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修も行っており、法人全体として身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		今後も全職員に対して研修を行いながら、身体拘束を行わないケアの実践を行っていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関に鍵を掛けることなく、自由に出入りできるようにしている。		今後も続けていく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず所在の確認をおこなうようにし、外に出られる入居者に対して、制止せず見守り、安全に配慮している。		前記のように近隣のガソリンスタンドに御家族の了解を得て写真と特徴を書いたものを置かせてもらったりもしている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	あるべきところに物があり、特に物品に関しては置いてはいけないという考えは無く、日常生活の中で見守っている。		今後も継続していく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒等に関しては個々の状態を把握して常に見守り、知識等も研修等で学び、個々に応じた事故防止に取り組んでいる。行方不明にならないように、玄関にセンサー(前を人が通過すると音楽がなる)をつけ、状況が把握できるようにしている。事故対応の訓練(捜索訓練・避難訓練・心肺蘇生法など)も行っている。		事故のないように取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年一回、法人全体で心肺蘇生法の訓練等を行っている。又、非常時や緊急時には、併設の特養からの応援も受ける事ができている。		きらく自体での職員研修も必要である。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、併設の特養の協力を得ながら災害時避難訓練を行っている。非常時や緊急時には、併設の特養からの応援も受ける事ができている。		運営推進会議などを通して、災害時避難訓練等を実施し、地域の人々の協力が得られるようにしたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事実を隠さずにお伝えし、起こりうるリスクについて家族の方とお話している。御家族からの要望に対しても出来る限り対応するようにしている。リスクがあるからといって、抑圧感のある暮らしにならないようにしている。		今後も御家族の方の協力、母体特養の協力も得ながら対応していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に体調の変化や異変の発見に努めており、そのような時には職員間で情報を共有し、家族等に連絡するようにしている。又、非常時や緊急時には、併設の特養からの応援も受ける事ができている。		本人の認知症の状態によっては病院からの受入れが困難な事もあるので、医師とも連携しながら対応していく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は理解しており、薬の内容や用量に変化があったときにはスタッフ全員が把握できるよう申し送りノートに記入している。		薬に関する知識(新しい薬)をさらに深める必要がある。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材に食物繊維をなるべく取り入れるようにしたり、牛乳を飲んでいただいたりしている。体操や散歩にて身体を動かしている。		今後も同様に行う。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがいをしたり義歯を洗ったりしている。就眠時は、義歯の方は、洗浄剤につけるなどしている。		今後も同様に行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が低下しているようなときは、補食として高カロリーゼリーを摂取していただいたり、一日をとおしてこまめに水分補給(お茶や牛乳など)飲んでいる。母体特養の栄養士や看護師のアドバイスを受ける事もある。		個々に応じた対応を行っていく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、手洗いや換気には気をつけている。職員が媒介者にならないように注意して実行している。		今のところ、感染症が蔓延したりと言う事は無い。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ほぼ毎日、買い物にでており新鮮な食材を使用している。買い物先から帰るときには、保冷バックを使用している。調理用具についても、こまめにハイターで消毒を実施している。		今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にはスロープを設置しており、安心して出入りができるようにしている。		きらくからあさひが丘荘に遊びに行ったり、あさひが丘荘や通所の利用者が遊びに来られる事もある。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い時は、レースカーテンを使用している。ダイニングのテーブルには季節ごとの花が生けられ季節感を感じてもらっている。不快な音や光、臭い等にも配慮している。		今後も居心地の良い空間作りに努めていく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはベンチを置いており、静かに過ごせるようにしており、また、あえて職員の見えない場所も作っている。時には自室で休んだり、冬になればこたつで昼寝したりして過ごしている。		今後も生活者としての視点で支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きな写真を飾ったり、観葉植物をおいたり、カーペットを敷いたりしている。御家族がハンガーを掛けられるようにされたりと使いやすいように等もされている。		もっと居心地よく過ごせるような工夫も検討していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には、24時間換気システムが設置されており適宜換気を行っている。日中は窓を開けるようにしている。室温調節もこまめに行っている。		今後も継続していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ダイニング・廊下には手すりが設置してあり、安全に移動できる。また、入浴時に浴槽に入りやすいようにマットを設置したり、浴槽内に滑り止めマットを敷いたりしている。トイレは、なるべく御自分の力が活かせるように手すりを設置している。		個々の持っている力を活かしながら生活する事ができるように必要に応じて今後も工夫していく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が分かるように字と色の目印がある。居室入口には入居者本人が書いた自前の表札を掲げており、自室がわかるようにしている。		今後も自立した生活を長く続けていく事ができるよう工夫を重ねていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前には、家庭菜園があり、ちょっとした野菜の収穫や草取りが出来るようにしている。また、外周りやベランダで食事をしたり、洗濯物を干したり、布団を干したりできる。		季節に応じて、より楽しむ事ができるようにしていく。

. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
		利用者の2/3くらい
		利用者の1/3くらい
		ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
		数日に1回程度ある
		たまにある
		ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と
		家族の2/3くらいと
		家族の1/3くらいと
		ほとんどできていない
項目	最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように
		数日に1回程度
		たまに
		ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

幅広い年齢層の職員があり、利用者への柔軟な対応ができています。日々落ち着いた生活が送れるようにしている。病院受診は御家族の協力を得ることが出来ており、定期受診はご家族・ご兄弟の方に連れて行っていただくようにしている。必要に応じて職員がご家族と一緒に病院受診に同伴したり、文書や電話などで各かかりつけの病院医師と連携をとっている。御家族との連携が図れている。職員が入居者と一緒にゆっくりと話をする時間を持つことができています。